

- 問1 インダス川流域で栄えた古代文明の遺跡について、当時の社会の様子を推察する説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 文字を記した粘土板が大量に発掘されており、その解読結果から、肥沃な三日月地帯において灌漑農業を基盤とした交易が盛んであったことがわかる。 | 2. 大規模な王墓や死者の墓が発見されていることから、死後の世界を重視し、強力な専制君主による統治が行われていたことがわかる。 | 3. 計画的に配置された道路や水路、巨大な公衆浴場などの跡から、高度な土木技術と組織的な都市運営が行われていたことがわかる。 | 4. 城壁に囲まれた都市が点在し、各都市で異なる暦や度量衡が使われていたことから、統一された文化を持たない部族連合体であったことがわかる。 |
|---|---|--|---|
- 問2 メソポタミア文明において生み出され、現代の私たちの生活における「時間」や「暦」の考え方の基礎となっている数学的・天文学的知識の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2017年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|---------------------------|-------------------------|
| 1. 二十四節気の導入と、太陰太陽暦の作成 | 2. ゼロの概念の発見と、十進位取り記数法 | 3. 1年を365日とする太陽暦と、10進法の活用 | 4. 1週間を7日とする制度と、60進法の活用 |
|-----------------------|-----------------------|---------------------------|-------------------------|
- 問3 中国の黄河流域で発見された、亀の甲羅や牛の骨に複雑な形状の文字が刻まれた資料について、この文字を使用していた王朝とその背景の説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|
| 1. 漢の時代に、儒教の教えを広く民衆に伝えるための石碑に刻むために作られた。 | 2. 秦の時代に、始皇帝が文字を統一して全国で公式に使用するために定めた。 | 3. 殷の時代に、王が政治の重要事項を占った結果などを記録するために使用された。 | 4. 隋の時代に、科挙の試験を正確に実施するために標準化された書体として広まった。 |
|---|---------------------------------------|--|---|
- 問4 古代文明とその特徴を説明した文として、ナイル川流域で栄えた文明に当てはまるものはどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------|
| 1. 定期的な増水を利用して農耕を行い、太陽暦や象形文字が作られた。 | 2. インダス川の流域で栄え、モヘンジョ・ダロなどの都市遺跡が造られた。 | 3. ティグリス川とユーフラテス川の流域で発展し、太陰暦や楔形文字が使われた。 | 4. 黄河や長江の流域で起こり、甲骨文字や青銅器が作られた。 |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|--------------------------------|
- 問5 日本列島における旧石器時代の人々の生活や道具の特徴について、その背景を含めて説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 弓矢を用いてシカやイノシシなどの足の速い小動物を狩り、表面を磨き上げた磨製石器を主な道具として用いた。 | 2. 大陸から伝わった稲作の技術により食料生産が安定し、収穫のために石包丁などの打製石器を用いた。 | 3. 特定の場所に定住して堅穴住居を営み、食料を保存するために表面に縄目の文様をつけた土器を使用した。 | 4. ナウマンゾウやオオツノシカなどの大型の獲物を追って移動しながら生活し、狩猟や解体には打製石器を用いた。 |
|--|---|---|--|
- 問6 古代ギリシャにおいて、山がちな地形や島々が点在する地理的要因もあり、各地に形成された小規模な独立した政治単位である「都市国家」を何と呼びますか。 (2025年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|-------|--------|
| 1. 封建領主 | 2. ポリス | 3. 帝政 | 4. 共和政 |
|---------|--------|-------|--------|
- 問7 かつて日本列島には土器が出現する前の時代は存在しないと考えられていましたが、1949年に相沢忠洋氏が群馬県にある特定の遺跡で、火山灰が堆積した関東ローム層の中から石を打ち欠いて作られた道具を発見したことで、その定説が覆されました。このとき発見された道具の名称と、遺跡名の組み合わせとして正しいものを選択してください。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|--------------|--------------|----------------|
| 1. 打製石器・三内丸山遺跡 | 2. 磨製石器・岩宿遺跡 | 3. 打製石器・岩宿遺跡 | 4. 磨製石器・三内丸山遺跡 |
|----------------|--------------|--------------|----------------|
- 問8 孔子を始祖とする儒教の考え方は、日本の歴史学や政治にも大きな影響を与えました。江戸時代、儒学の知識を背景に、日本の政権交代の歴史を古代から徳川家まで「五変九回」という独自の視点で分析した『読史余論』を著した人物は誰か。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 福沢諭吉 | 2. 徳川家康 | 3. 新井白石 | 4. 本居宣長 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問9 紀元前2500年ごろ、現在のパキスタン付近を流れる大河の流域に成立し、高度な都市文化を形成した文明について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|----------------------------------|---|
| 1. ナイル川流域で栄え、ピラミッドの造営や象形文字の使用を特徴とするエジプト文明 | 2. インダス川流域で栄え、モヘンジョ・ダロなどの計画的な都市遺跡を特徴とするインダス文明 | 3. 黄河流域で栄え、青銅器の使用や甲骨文字を特徴とする黄河文明 | 4. ティグリス川・ユーフラテス川流域で栄え、楔形文字や太陰暦を生み出したメソポタミア文明 |
|---|---|----------------------------------|---|
- 問10 紀元前5世紀頃の古代ギリシャの都市国家アテネにおいて確立された、市民が国政の重要事項を直接話し合って決定する政治体制を何と呼びますか。また、その意思決定を行う場の名称として正しい組み合わせを選びなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|--------------------|---------------------|--------------------|
| 1. 直接民主政を行い、民会で決定した | 2. 貴族政を行い、元老院で決定した | 3. 間接民主政を行い、議会で決定した | 4. 独裁政治を行い、広場で決定した |
|---------------------|--------------------|---------------------|--------------------|
- 問11 前漢（漢）の時代、大規模な防衛施設である万里の長城が、現在の中国の内陸部から黄河の北側にかけての境界線沿いに整備されました。このように、漢が大規模な長城を維持・拡張した主な目的として正しいものはどれですか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 朝鮮半島や日本列島との海上貿易を管理する拠点とするため | 2. 黄河の氾濫を防ぎ、周辺の農耕地を保護するための堤防とするため | 3. 北方の遊牧民族による侵入を防ぎ、国土を防御するため | 4. 国内の反乱勢力を一定の地域に閉じ込め、中央集権体制を維持するため |
|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|
- 問12 弥生時代に現れた青銅器と、奈良時代に現れた和同開珎。これら2つの資料の使われ方や目的の違いを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 青銅器は主に祭りの道具などの宝物として使われたが、和同開珎は国家の権威を示し、建設費用をまかなう等の目的で発行された。 | 2. 青銅器は狩猟の道具として実用的に使われたが、和同開珎は死者を弔うための副葬品として使われた。 | 3. 青銅器は稲作の収穫効率を高める農具として使われたが、和同開珎は寺院を建立する際の地面を固める材料として使われた。 | 4. 青銅器は大陸との貿易を円滑にするための通貨であったが、和同開珎は国内の物々交換を禁止するために作られた。 |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 計画的に配置された道路や水路、巨大な公衆浴場などの跡から、高度な土木技術と組織的な都市運営が行われていたことがわかる。	モヘンジョ・ダロなどのインダス文明の遺跡では、規格化された焼成レンガが使用され、碁盤の目状に区画された道路や、各家庭からつながる排水溝が整備されていました。このような整然とした都市の構造は、共通の規格や高度な測量・土木技術を持つ強力な統治機構が存在したことを示唆しています。
問2	答え 4 1週間を7日とする制度と、60進法の活用	メソポタミア文明では、天体の動きを観察する天文学が発達し、そこから1週間を7日（七曜制）とする制度が考案されました。また、数学においては、60をひとつの区切りとする「60進法」が使われていました。この考え方は、現代においても1分を60秒、1時間を60分とする時間の単位や、円の角度を360度とする基準として受け継がれています。
問3	答え 3 殷の時代に、王が政治の重要事項を占った結果などを記録するために使用された。	殷の王は、祭祀や戦争、農作物の収穫などの重要事項を、亀の甲羅や牛の骨を焼いたときに入る「ひび」の形で占っていました。その占いの内容や結果を刻んだものが甲骨文字であり、当時の政治が宗教的な権威に基づいていたことを示しています。
問4	答え 1 定期的な増水を利用して農耕を行い、太陽暦や象形文字が作られた。	ナイル川流域で栄えたエジプト文明では、定期的にかかる川の増水を利用して農業が行われ、太陽暦や象形文字が発明されました。その他の選択肢は、メソポタミア文明、インダス文明、中国文明の説明となります。
問5	答え 4 ナウマンゾウやオオツノシカなどの大型の獲物を追って移動しながら生活し、狩猟や解体には打製石器を用いた。	旧石器時代は氷河時代とも重なり、当時の人々は大型の動物を狩るために群れを追って移動を繰り返す生活を送っていました。そのため、獲物を仕留めたり解体したりするために、石を打ち欠いただけの鋭利な打製石器が活用されました。弓矢や定住生活、土器の使用は縄文時代、本格的な稲作や石包丁の使用は弥生時代の特徴であり、石包丁は磨製石器に分類されるため旧石器時代の説明としては誤りです。
問6	答え 2 ポリス	古代ギリシャでは、平野が狭く山地が多いという地形的特徴から、一つの大きな国家にまとまるのではなく、アテネやスパルタのような「ポリス」と呼ばれる独立した都市国家が多数誕生しました。各ポリスは城壁で囲まれた市街地と農地を持ち、独自の軍隊や法律を備えていました。
問7	答え 3 打製石器・岩宿遺跡	群馬県の岩宿遺跡で打製石器が発見されたことにより、日本列島に旧石器時代（土器出現前の時代）が存在したことが初めて証明されました。打製石器は石を打ち欠いて鋭い刃を作った道具で、これに対して石を磨いて形を整えたものは磨製石器と呼ばれ、後の新石器時代（日本では縄文時代以降）に普及しました。三内丸山遺跡は青森県にある縄文時代の大規模な集落跡です。
問8	答え 3 新井白石	江戸時代中期の儒学者である新井白石は、儒教的な合理主義に基づいて歴史を考察しました。『読史余論』では、朝廷から武家へと政治の実権が移り変わる過程を論理的に整理しており、単なる出来事の羅列ではなく、歴史の因果関係を解き明かそうと試みました。
問9	答え 2 インダス川流域で栄え、モヘンジョ・ダロなどの計画的な都市遺跡を特徴とするインダス文明	現在のパキスタンを流れるインダス川流域は、国土の大部分が乾燥帯に属していますが、大河の氾濫による肥沃な土地を利用して文明が発達しました。この文明の最大の特徴は、整然とした道路や上下水道が完備された計画的な都市が建設されたことにあります。世界遺産にも登録されているモヘンジョ・ダロはその代表例であり、現代の日本からも遺跡の保全のために援助が行われています。
問10	答え 1 直接民主政を行い、民会で決定した	古代アテネでは、市民が代表者を通さず自ら政治に参加する「直接民主政」が発達しました。この意思決定の中心となったのは、全市民が参加資格を持つ「民会」と呼ばれる機関です。現代の多くの国で採用されている代表制（間接民主政）とは異なり、自分たちで直接投票を行う仕組みでした。
問11	答え 3 北方の遊牧民族による侵入を防ぎ、国土を防御するため	前漢の時代、中国の北方の草原地帯には強力な遊牧民族が活動しており、農耕定住社会である漢の領土へしばしば侵入を繰り返していました。漢の武帝などは、これに対抗するために万里の長城を修築・延長し、騎馬軍団による大規模な侵攻を食い止めるための軍事的な防衛線として活用しました。
問12	答え 1 青銅器は主に祭りの道具などの宝物として使われたが、和同開珎は国家の権威を示し、建設費用をまかなう等の目的で発行された。	弥生時代の青銅器（銅鐸、銅剣、銅矛など）は、当初は武器の形をしていましたが、次第に大型化し、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられるようになりました。一方、奈良時代の和同開珎は、律令制のもとで国家の経済的基盤を固め、都の造営などの支出をまかなうために発行された貨幣です。資料の用途の変化は、単なる道具の進化ではなく、社会の仕組みが「村の共同体」から「統一国家」へと発展したことを示しています。